

ビール粕、ふすま(ADFに富む飼料)添加による肉質 (特に「きめ」、「しまり」)改善効果

福島県畜産試験場肉畜部
平成17年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 畜産―肉用牛―家畜栄養
分類コード 07-02-39000000
- 2 担当者 佐藤亮一・萩原瞳・魚谷祐介・国分洋一
- 3 要 旨

本県基幹種雄牛「景東」の肥育体系マニュアル作成を前提に、増体系産子の肥育でみられる、枝肉のゆるさ（「きめ」、「しまり」に欠ける枝肉）を改善するため、増体系産子（景東産子去勢）を用い、肥育前期から中期にかけての6ヶ月間の飼養管理において、ルーメンをバイパスし、小腸以下へ到達する特徴をもつADFに富む飼料（ビール粕、ふすま）を肥育配合飼料に添加給与し、肉質（特に「きめ」、「しまり」）改善効果について検討した。

その結果、枝肉成績では、枝肉重量は3区（ビール粕給与）、2区（ふすまとビール粕給与）、1区（ふすま給与）の順に大きかった。脂肪交雑（BMS No.）は、2区(7.5) > 3区(7.0) > 1区(6.0)の順に優れていた。これは、ビール粕給与が飼料摂取量増加をもたらし、生後12～16ヶ月齢時の脂肪前駆細胞分化を促進、脂肪交雑改善に寄与したことによるものと推察された。「きめ」、「しまり」については、ビール粕給与の2、3区で良い傾向が見られたが、「しまり」は、「格付」にも影響されることがあることから、枝肉を実際に調査し、ビール粕添加による改善か否かについては、さらに検討が必要と思われた。

4 その他の資料など

なし